

被爆75周年原水爆禁止世界大会へのメッセージ

原爆の投下により犠牲となり、また長きにわたりつらい思いの中過ごされることを余儀なくされた方々に心より哀悼の意を表しますとともに、核なき世界をめざし、日々核兵器廃絶活動に取り組んでおられます貴会の皆様に、心より敬意を表します。人類の平和的な繁栄を願い、核兵器のない世界をめざす被爆75周年原水爆禁止世界大会の開催にあたり、連帯のメッセージをお送りいたします。

被爆者の方々が長年待ち望んだ核兵器禁止条約が国連にて採択されてから、早くも3年の月日が経とうとしています。しかしながら、条約発効まであと12カ国に迫ってはいますが、現在までに発効に至っていません。来年は東日本大震災から10年という節目を迎えます。福島第一原子力発電所事故の重さを改めて考えるとともに、人と核は共存できないことを伝え、その関係を断ち切り正していかななくてはなりません。

昨年末から猛威を振るう新型コロナウイルス感染症により、ニューヨークの国連本部で4月下旬に開幕予定であった核拡散防止条約（NPT）再検討会議も来年の延期を余儀なくされました。加えて、平和の祭典とも呼ばれる2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催も来年に見送られるなど、現在我々の日常は世界的な規模で危機に瀕しています。そのような状況下で、今回のオンラインでの集会の試みは、最新の技術を取り入れながら戦争犠牲者を悼む機会を奪うことなく、核兵器廃絶へ向けた歩みをとめないという力強い意志の表れであります。

被爆体験者や戦争体験者の方々が刻々と少なくなってきてしまっている中、後世の人々が二度と生き地獄を体験しないよう、核や戦争の実相を継承し、多くの人たちと連帯し行動していく、それが私たち青年に課せられた役割であると考えます。微力ではありますが、平和な社会の実現に向け、核兵器廃絶の運動に取り組み、皆様と共に歩んで参る所存です。

終わりに、本大会が核兵器も戦争もない真に平和で豊かな社会をつくるための第一歩となることを祈念いたします。共に頑張りましょう。

日本青年団協議会

会長 中園 謙二